

【著作権について】

- ・著作権はすべて作者である梅井ゆえに帰属します。
 - ・ダウンロードした作品は無料で閲覧いただけます。
 - ・非公開で突破的に使用される場合のみ、連絡不要かつ無料でお使いいただけます。
 - ・右記以外で本作を使用したい場合は、使用料の有無にかかわらず梅井ゆえまでご連絡ください。(Mail:umeiyue54@gmail.com)
 - ・使用方法・料金等の詳細は、梅井ゆえウェブサイト (<https://script.umeiyue.website>) のガイドラインをご覧ください。
-

「比良坂病院・旧隔離病棟9階の話」

梅井ゆえ

【登場人物】

- ・関川アンロック（セキカワアンロック）.. 幸の薄い心霊系配信者。
- ・宮杜蜚志（ミヤモリケイシ）.. 心霊スポットに来た人を脅かして人払いをすることを職業にしている。半信半疑だが護身のため除霊術も少し勉強している。
- ・姫里双葉（ヒメサトフタバ）.. 超恋愛脳夢女子なホンモノの幽霊。

比良坂病院入口。関川が恐怖に震えながら、カメラと向かい合っている。

関川「み、皆さんは、『比良坂病院』をご存じでしょうか。心霊や怪談好きでもコアな方なら知っている廃病院ですね。その旧隔離病棟9階にあるナースステーションへ行った人間は、必ずと言って言いほど『女性に追いかけられた』と話します。私の知り合いの霊媒師いわく、ここで無念の死を遂げた若い女性が、今も道連れにする相手を探しているとのこと。今までに数多くの霊媒師が除霊に臨んでいますが、未だに心霊現象は治まっておりません。……今日はそんないわくつきの病院へ潜入します。ひっ！……おわかり……いただけたらどうか……。今も病院の中から、女性の鼻歌のような明るい声が聞こえてきました。まるで今から病棟内に入る私を心待ちにしているかのようです。皆さんどうか、私の無事の帰還を祈っててください。」

旧隔離病棟9階ナースステーション。

宮杜「おー、寒っ。依頼主から指定された場所は、『旧隔離病棟9階にあるナースステーション』。ここで間違いないか。にしても、こんな寒い時期にも肝試しに来る奴って物好きだよな。」

姫里「きゃ！」

宮杜「おわ！！脅かすなよ。」

姫里「え……？ わたしのこと、見えるんですか！」

宮杜「いい、いい、いいって、そういう鉄板の。俺もさ、同業だから。」

姫里「ドウギョウ？」

宮杜「大丈夫、俺、分かってるから。君、ここに肝試しに来た人間を脅かして、追っ払ってるんでしょ。格好もソレっぽいいし。」

姫里「まあ……。結果的には……？」

宮杜「ほらほら。俺もその口だからさ。」

姫里「はあ……？」

宮杜「ま、仲間同士、よろしく。」

姫里「……よろしくお願いします。ふふっ♡」

宮杜「ん？」

姫里「私、こう見えて、かれこれ数十年前からこちらに居るのですけれど、人と話したのは初めてで。」

宮杜「数十年前から!？」

姫里「ダメですか？」

宮杜「いや、ダメじゃないですけど……。結構若く見えるけど、年上かな……？ って、いつまで手握ってるの？」

姫里「あなたが望むならいつまでも♡」

宮杜「望んでないから！」

姫里「あら、連れない人。」

宮杜「あ、面倒くさい人かも……」

姫里「なにか、のたまい遊ばして？」

宮杜「いえ、なにも。じゃ、俺はこれで……」

姫里「えー。離れたくないですう。しくしく。」

宮杜「とりあえず住み分けしない？」

姫里「とうと？」

宮杜「だから、もし人がきて脅かすとなると、二人いたら人間ってバレる可能性が高まっちゃうでしょ。まして、エレベーター前のナースステーションなんて、隠れられる場所少ないし。」

姫里「わたしは問題ないと思いますけれど。」

宮杜「俺は問題大有りなの！」

姫里「まあ！ そんな大声を出しては見つかってしまいますわ。」

宮杜「どの口が言ってたんだか。」

姫里「仕方ありませんわね。分かりましたわ。」

宮杜「分かってくれたなら結構……って、もういいない。さすが数十年のプロってところ……か？」

遠くから関川の情けない叫び声が聞こえる。

関川「あああああゝゝ！ はあ、はあ、ここまで来れば……」

宮杜「来た来た。くくく……」

旧隔離病棟9階。非常階段の方から関川が走ってくる。

関川「うあああああゝゝ！ はあ、はあ、ここまで来れば……」

宮杜「ふふふふ。お注射の時間ですよ……。」

関川「あ……（気絶）」

宮杜「って、おい！」

姫里「気絶してしまいましたわね。」

宮杜「わっ！ いきなり出てくんな。」

姫里「仕方なくってよ。この方を追いかけて来たのだから。で、この方、どうしますの？」

宮杜「どうするって……このままだと、風邪をひいてしまうし……」

関川「んがっ！ はあ、はあ、はあ……。わああ！」

宮杜「あー、ごめんごめん。俺、人間だから。脅かしてごめん。いや、脅かすために来ているんだけど……」

関川「助けてくださーい！ このままだとロリータの幽霊に殺される。」

宮杜「はああ？」

関川「い、今、階段の方に……！」

宮杜「いいから、落ち着いて。君、誰？ なんでここに来たの？ 順番に話してみて。」

関川「はぁ……。私はいわゆる心霊系配信者というやつで、噂の心霊スポットへ行っては心霊現象を動画に収めてネットにアップしているんです。今日も、以前から話を聞いていたこの病院に、心霊現象を撮りに来ました。」

宮杜「なんで、失神するほど怖がりなのに、そんなことやってるの。」

関川「そこが売りなんです。どうも怖がっている私の様子が視聴者に受けているようで。怖いのは嫌ですけど、撮影を乗り越えた後の達成感も好きで続けてるんです。」

宮杜「君、ドMって言われない？」

関川「言われたこと無いです。」

宮杜「真面目に答えなくていいよ！で、なんで、さっき叫びながら走って来たわけ。」

関川「旧隔離病棟9階のナースステーションの話は知っていますよね。私もその噂を聞いてここに向かっていたんです。したら、非常階段でここへ上って来る途中、ふと後ろで、カッン…カッン…カッン…とヒールの鳴る音が聞こえた気がしたんです。怖いなぁ怖いなぁと思うながら、後ろを振り向くと……」

姫里「おはよう遊ばせ、愛しのハニ〜！」

関川「出たあー！」

宮杜「お前かよ！」

姫里「あら、酷いですわ〜。」

宮杜「大丈夫だから。こいつも人間だから……」

関川「あんた、分かんないのか！？」

宮杜「は？」

姫里「わたしは、とうの昔に人間ではなくなつてよ。」

宮杜「へ？」

関川「はぁ。」

宮杜「え？」

姫里「ふふ♡」

宮杜「ええええ！！？！」

姫里「もう、鈍感さん♡」

宮杜「やめろー！触るなー！くわばらー！くわばらー！」

姫里「あ、熱いっ！なんですの、これ。」

宮杜「清め塩！」

関川「塩って本当に効果あるんだ！」

姫里「ストップ！ストップ！そんなんじや、私は成仏しませんわ！」

関川「もしかして、噂になつて幽霊って……」

姫里「私のことなんじゃないですの。まあ、病院には私以外にもいますけど、9階といえば私しかおりませんもの。」

関川「やっぱり……。」

宮杜「ちよつと待って、最初会った時、『数十年ここにいる』って言ったよね。」

姫里「はい。」

宮杜「じゃあ、これまでにいろんな霊媒師が来たけど、そのどの儀式でも成仏してないってこと？」

姫里「そういうことになりますわね。」

関川「うわぁ。ど、どうか、私のことは道連れにしないでください。」

姫里「道連れ何も、私にそういった力はなくってよ。」

関川「良かったー。」

宮杜「じゃあ、なんでここに來た人間を襲ってるの？」

姫里「襲っているだなんて、人聞きの悪い。……私、『キュンキュン』を求めていますの！」

関川「は？」

宮杜「は？」

姫里「私は生前、免疫が弱く、すぐに感染症に罹ってしまう質(たち)でしたので、人生の大半をこの病院で過ごしました。長く付き合える友達もなかなかいない、そんな私の唯一の楽しみといえば……少女漫画でした！」

宮杜「え、だから、その口調？」

姫里「あの少女漫画にあるような『キュンキュン』を知るまでは、死んでも死にきれない！その最期に思いながら息を引き取って、気が付いたらここに居ましたの。」

関川「なるほど、その強い思念が魂を留まらせて、あなたを地縛霊にしたのか。」

姫里「私を成仏させるのは、私をキュンキュンさせる、愛の力だけなのですわ！だから、運命の相手を探し求めて、ここに來た方にちよつと声を掛けていますの。」

関川「それだ。」

宮杜「それだ。」

姫里「そもそも私のことが見えない方が大半ですので、見える方とお会いできると嬉しくって、つい。」

関川「そりゃ追いかけられたら、誰だって怖いですよ。」

姫里「わたしにだって、成仏したいって気持ちがありますのよ。そうですわ！こうやってお話ができてるのは、運命！おふたりにはわたしの成仏を手伝っていただきますわ！」

宮杜「お経なら唱えられるけど、宗派が違ったらごめん。」

姫里「お経なんて、わたしにとっては何の意味もありませんわ。私に必要なのは、鎮魂歌(レクイエム)……『愛の鎮魂歌(レクイエム)』ですわ！」

宮杜「うわ……」

関川「すでに、胸やけがしそうだ……」

姫里「では、あなた。」

関川「私!？」

姫里「ええ、だってお声が好みなんですもの。さっきの絶叫も捨てがたいくらいにキュンキュンしましたが……ぜひとも、私が今から言う台詞をあなたの声で聴きたいのですわ。」

関川「は、はあ……」

姫里「コホン。『君の目を奪う薔薇の花や、僕よりずっと君の近くにいられる首飾りの宝石にさえ苛立ってしまう。この感情を嫉妬だと教えてくれたのは君だよ。永遠に、傍に置いて

くれるかい?』……ですわ♡」

関川「くっ、こんな小っ恥ずかしい台詞を……」

姫里「ダメですか?」

関川「いえ、何でもないです。」

宮杜「ふふ、くく……」

姫里「熱く見つめ合って告白されるのが夢でしたの。お願い?」

関川「(物凄く嫌そうに、やつつけで) き、君を奪う……薔薇や、ずっと近くに、君の近くにいられる……宝石? にさえ苛立ってしまう……。この感情を嫉妬だと教えてくれたのは……君だ……。永遠に、傍に置いてくれるかい? ……」

姫里「んー! ちょっと、いや、大分我慢したけど、ダメですわ! 全っ然、なっていないせんわ!」

宮杜「ちゃんとやれよー。気合見せろー。」

関川「外野だと思って……!」

姫里「そうですね。あなたの方が器用そうなのでお手本を見せてくだらないかしら。」

宮杜「は?」

関川「ふふふ、ヨロシクお願いシマース。」

宮杜「なんで幽霊相手にっ! 彼女にもこんなこと言ったことないんだぞ!」

関川「練習、練習ー。帰ったら言っただけでー。(笑)」

宮杜「先週フラれたわ! クッソ。お前がちゃんとやってたら、俺まで言わされる羽目にはなっていないだよ!」

関川「あんたこそ、この人を成仏できるような能力持ってたら良かったじゃないですか。霊媒師でしょ!」

宮杜「ああん? 俺は霊媒師じゃないっつうの! 俺が仕事で祓うのは、心霊スポットにたかるニ・ン・ゲ・ン!」

関川「今、心霊系の配信者を全員敵に回したな!」

宮杜「黙れ、不法侵入者! 俺は土地の所有者から依頼を受けてるから、公認なんですう!」

姫里「私のために争わないでー!」

関川「さっさと成仏しろ!」

宮杜「さっさと成仏しろ!」

姫里「てへペロっ☆」

宮杜「かくなる上は、もう強硬手段だ。」

関川「いったいどこからそんな大きな剣を、」

宮杜「祓い給い、清め給え、神ながら守り給い、幸(さきわ)え給え。これでお前を討つ!」

姫里「きゃー!」

関川「ちょ! ちょっと落ち着いて!」

宮杜「止めるな! こいつは害悪だ! 現世(うつしよ)から消し去ってやる!!」

関川「うわあああ!」

姫里「その熱い視線! とてもイイ! イイですわ!! キュンキュンしますわあああ!!」

宮杜「ふんっ！（剣を振り下ろす）」

関川「え……」

宮杜「え……」

関川「成仏……した？」

宮杜「ラブ・イズ……オーバー……」

関川の配信動画。

関川「これがあの比良坂病院で、私が体験した心霊現象の一部始終です。おわかり……：……ただけただろるか……？ 多くの方には、私達が2人で騒いでいるように見えるでしょう。しかし、靈感をお持ちの方には、私達の他にもう1人いる様に見えるそうです。さて、比良坂病院旧隔離病棟9階では、これ以降心霊現象はパツタリとなくなったそうです。信じるか、信じないかは、あなた次第。それではまた、次の心霊スポットでお会いしましょう。」

（終わり）

【著作権について】

- ・著作権はすべて作者である梅井ゆえに帰属します。
- ・ダウンロードした作品は無料で閲覧いただけます。
- ・非公開で突破的に使用される場合のみ、連絡不要かつ無料でお使いいただけます。
- ・右記以外で本作を使用したい場合は、使用料の有無にかかわらず梅井ゆえまでご連絡ください。(Mail:umeiyue54@gmail.com)
- ・使用方法・料金等の詳細は、梅井ゆえウェブサイト (<https://script.umeiyue.website>) のガイドラインをご覧ください。

梅井ゆえ「比良坂病院・旧隔離病棟 9 階の話」